

南阿波へようこそ

徳島県南部、高知県との県境に位置する自然豊かなロケーション。

研修の基幹病院は、徳島県立海部病院。

110床の病院で、救急告示病院、へき地医療拠点病院、臨床研修指定病院（協力型）、地域災害医療センター、第二種感染症指定医療機関です。

内科、外科、整形外科、産婦人科、脳神経外科が常勤していて、循環器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、胸部外科の各科の応援診療があります。

つまり、地方に位置するため診療の主体として総合医が求められる環境でありながら、専門各科の支援が充実しているため、各専門領域の診療能力を伸ばしていくことが容易です。在宅医療やリハビリテーション診療も活発に行っています。

ここでは家庭医を特徴づける能力である、患者中心・家族志向の医療を提供する能力を養い、日常のさまざまな健康問題を扱う家庭医にとって必要な専門各科のプライマリケア領域の診療能力を身につけることができます。

家庭医療専門研修は、家庭医療後期研修プログラムのキモとなる重要な期間です。

研修医・学生の豊富な受け入れ実績をもつ由岐病院、穴喰診療所、離島にある出羽島診療所などから選択します。

いずれの場合も定期的に、振り返りと次の目標設定のための指導医とのセッションをもちます。家庭医には、患者・家族を包括する全人的医療のみならず、病院に訪れない大多数の地域住民の疾病予防と健康増進に取り組む、地域包括ケアの視点が要求されます。指導医とのセッションでは、地域・コミュニティーをケアする能力を育成するための指導も行います。

プログラムの特徴

内科診療

- 徳島県立海部病院で行います。
- 総合診療外来と内科入院診療を1年間行うことで、多彩なcommon diseasesをもった患者さんを経験することができます。
- 他科をローテート中も、総合診療外来を継続することにより、初診診療能力と慢性疾患管理能力が育成されます。
- 外来診療については、指導医のチェックと振り返りが行われます。
- 入院診療については、疾患ごとの習熟度に応じて、サポートを行います。
- 海部病院は、初期研修医を常時1~2名受け入れ、学生の地域医療実習を毎月1週間行っています。初期研修医と学生の教育にも携わることで、教育技法を学んでいただきます。

小児科診療

- 家庭医として、小児救急も含め一般小児診療に対処できることは重要です。

救急診療

- 徳島県立海部病院は県南部救急医療のトリデです。
- 患者さんを安心させつつ、適切な検査・治療を行います。心配するご家族への配慮も重要です。
- 救急・入院の現場では気管挿管、中心静脈穿刺などの機会は日常的にあります。
- 院内救急蘇生講習会も随時開催。
- 二次医療機関ですが、三次救急患者さんも搬送されます。
- 高次医療機関への搬送には1時間かかるため、初療のチカラは重要です！

外科系手技

- 一定期間「地域の整形外科医」になることで、プライマリケアに必要な外傷診療が効率的に身に付きます。

検査手技

- 上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、気管支鏡、腹部エコー、心エコーの技術研修が受けられます。

領域別研修

- 脳神経外科、産婦人科、神経内科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、呼吸器外科の見学・研修が可能です。

徳島大学大学院総合診療医学分野との強力な連携

- 大学で開催するEBM学習会やカンファレンスに参加可能。
- 希望に応じて週1回大学で技術研修するなど、多彩なバリエーションが可能。

学習環境

- 敷地内の建物で海部郡医師会の勉強会が定期的で開催されており、参加は容易です。
- WEBカンファレンスも随時開催されています。
- Procedures CONSULT, メディカルオンラインが無料使用可能です。

多彩なOFFの楽しみ

- ◇ 阿波踊り（地域に溶け込むならやはりコレ。連に入って練習します）
- ◇ ソフトボール（海部病院ソフトボールチームと町のチームでリーグがあります）
- ◇ バドミントン（コメディカルさんとの貴重な交流の場です）
- ◇ ジョギング（朝のジョギングはカクベツです）
- ◇ サーフィン（近くの海岸には阪神からも多くのサーファーが訪れます）
- ◇ 釣り
- ◇ おいしい魚介

応募資格

- 初期臨床研修（2年）を修了した医師、あるいは修了予定の医師

研修期間

- 3年間

研修の目標

一般目標（研修終了時点の目標）

- 全人的診療能力と地域包括ケア能力を身につけ、地域の診療所や中小病院で第一線の医療を行う事ができる

行動目標（一般目標を達成するための評価可能な個別目標）

1. 外来、救急、入院診療において、総合内科医として自立した診療を実践できる。
2. 生物医学的問題のみならず、患者の心理、家族、社会背景に配慮した診療を実践できる
3. 患者の抱える問題点を列記し、必要な情報を迅速に収集することができる。
4. 小児を対象とした医療を家庭医として実践できる
5. 外傷の初期治療を実施できる
6. 日常の大多数の健康問題の相談にのることができる
7. 在宅診療を実践できる
8. リハビリテーションを理解し、評価・実施できる
9. 地域住民の疾病予防と健康増進に関わることができる
10. 学生、初期研修医に1対1の教育ができる
11. 組織の運営に携わることができる
12. 研究発表を行うことができる

1. 外来、救急、入院診療において、総合内科医として自立した診療を実践できる。

- ① 総合外来初診を自立して診療できる。
- ② 頻度の多い慢性疾患について、継続的で効率的な診療を実践できる。
- ③ 救急患者を自立して診療できる。必要な場合には応援を頼むことができる。
- ④ 内科入院患者の一般的診療を実施できる。
- ⑤ 緩和医療を行うことができる。
- ⑥ 二次救命処置を実施できる。
- ⑦ 中心静脈穿刺を実施できる。
- ⑧ 抗菌薬を適切に使い分けることができる。
- ⑨ 必要に応じて適切な相手に相談、紹介することができる。
- ⑩ 他職種と円滑なコミュニケーションをとり、リーダーシップを発揮できる。

2. 生物医学的問題のみならず、患者の心理、家族、社会背景に配慮した診療を実践できる。

- ① 患者と家族の問題に対する解釈・感情を明らかにすることができる。

- ② 患者と家族の医療者に対する期待、予後に対する期待を明らかにすることができる。
 - ③ 患者と家族を社会、文化的背景を含めて理解・評価することができる。
 - ④ 患者や家族の問題に関して患者や家族と共通の理解基盤を見いだすことができる。
 - ⑤ 必要時に家族カンファレンスを計画し、基礎的なカウンセリングを行うことができる。
3. 患者の抱える問題点を列記し、必要な情報を迅速に収集することができる。
- ① POMR(problem-oriented medical record)に従いカルテ記載することができる。
 - ② 生物医学的問題に限らず、心理、社会背景も含めた問題点を過不足なく列記することができる。
 - ③ 患者の問題解決に役立つ医学情報を迅速に入手することができる。
 - ④ EBM(evidence-based medicine)に則って得られた情報を吟味し、識別力をもって患者に適用することができる。
 - ⑤ 原著論文や臨床データベースを利用するにあたり必要な統計学の知識がある。
4. 小児を対象とした医療を家庭医として実践できる
- ① 身体的不調を訴えて、あるいは疑われて受診した小児に対し、医学的に診断し対処することができる。
 - ② 入院治療の必要性を判断できる。
 - ③ 小児を対象とした予防接種、乳幼児健診、発達相談、学校保健などの保健医療活動に主体的に参加できる。
 - ④ 対象となる小児だけでなく、家族、学校、地域との関わりを考えることができる。
5. 外傷の初期治療を実施できる
- ① JATEC(Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) / JPTEC(Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care)を受講している。
 - ② 救急外傷患者に対し、適切な初期対応を実施できる。
 - ③ FAST(focused assessment with sonography for trauma)を実施できる。
 - ④ 必要な患者には適切な処置を施した上で救急搬送することができる。
 - ⑤ 汚染創の洗浄を実施できる。
 - ⑥ 縫合の可否を判断し、縫合処置を実施できる。
 - ⑦ 骨折の診断ができる。
 - ⑧ シーネ固定、ギプス固定を実施できる。
 - ⑨ 熱傷の深達度を評価して治療できる。
6. 日常の大多数の健康問題の相談にのることができる。
- ① 高齢者の特性を理解し、診療を行うことができる。
 - ② 認知症、骨粗鬆症、褥瘡、誤嚥性肺炎、尿失禁、尿路感染症など高齢者に多い疾患・病態について熟知している。
 - ③ 健診異常に対して、二次検査と生活習慣に関するアドバイスを実施できる。
 - ④ 整形外科的健康問題をある程度診断し対処できる。
 - ⑤ 妊娠中・授乳中の女性の健康問題に関して、必要な場合には使用する薬を判断できる。
 - ⑥ 婦人科的健康問題に関して、婦人科医受診の必要性を判断できる。

- ⑦ よくある精神疾患や心の問題について評価を行うことができ、専門医への紹介の必要性を判断できる。
- ⑧ 抗うつ薬、抗不安薬、鎮静催眠薬をそれぞれ使い分けられる。
- ⑨ 皮膚科的健康問題に関して、ある程度診断し治療できる。外用薬を使い分けられることができる。専門医への紹介の必要性を判断できる。
- ⑩ 主治医意見書を記載できる。

7. 在宅診療を実践できる

- ① 個々の患者において在宅医療の必要性を判断できる。
- ② 急性期の医療を実施できる。
- ③ 在宅において緩和医療を実施できる。
- ④ 在宅において看取りを実践できる。
- ⑤ 在宅医療の主治医として機能することができる。
- ⑥ 在宅医療に関わるチームと効果的に連携して診療できる。

8. リハビリテーションを理解し、評価・実施できる

- ① 徒手筋力テスト(MMT)、Brunnstrom stageを用いて、機能評価を行うことができる。
- ② Barthel index、機能的自立度評価表(FIM)を用いて、能力評価を行うことができる。
- ③ 記憶障害、注意障害、遂行機能障害など高次脳機能を評価することができる。
- ④ リハビリテーションを指示し、基本的なリハビリテーション指導は自ら実践できる。
- ⑤ リハビリテーションチームと円滑なコミュニケーションをとり、リーダーとして機能できる。

9. 地域住民の疾病予防と健康増進に関わることができる

- ① 地域の政治・経済・文化的背景や、健康に関するニーズを理解しようと努めている。
- ② 地域の予防・健康教育に関する事業を理解し、評価することができる。
- ③ 地域の保健・医療・福祉システムと利用可能なサービスを理解し、評価することができる。
- ④ 地域の健康に関する計画やサービスに参加し、他職種や住民と協力してその改善に取り組むことができる。

10. 学生、初期研修医に1対1の教育ができる

- ① 成人学習理論を理解している。
- ② フィードバックの技法を理解している。
- ③ 5つのマイクロスキルを用いた教育技法を理解している。
- ④ 学生、初期研修医向けに教育目的のセッションを実施できる。終了後に評価・改善することができる。

11. 組織の運営に携わることができる

- ① 医療保険制度と介護保険制度を理解している。

- ② 患者・家族の利便性を確保することができる。
- ③ リスクマネジメント（医療事故、感染症、廃棄物、放射線など）を行うことができる。
- ④ 財務・経営に関するマネジメントを行うことができる。
- ⑤ スタッフの管理・教育を行うことができる。
- ⑥ 地域の保健・福祉職員や他の医療機関スタッフと良好なチームワーク・ネットワークを形成することができる。

12. 研究発表を行うことができる

- ① 日常診療や地域の問題点・疑問点を見いだすことができる。
- ② 先行研究を調査して、研究の必要性を評価できる。
- ③ 指導医と相談の上で研究計画を立案できる。
- ④ 研究計画を実行、遂行できる。
- ⑤ 学会や研究会で発表できる。

評価

評価は、ポートフォリオ、到達度チェックリスト、経験した症例のまとめ、**common problems** チェックリストを用います。チェックリストは、**a.** 自立してできる、**b.** 指導医の監督下でできる、**c.** 経験した、**d.** 見学した、**e.** 見学・経験していない、の5段階の自己評価と指導医による評価から構成されています。

1. 形成的評価

- ① 研修ターム開始時に、研修目標を作成します。
- ② 1～2週間ごとに、ポートフォリオ、経験した症例のまとめ、**common problems** チェックリスト、到達度チェックリストを用いて研修評価とフィードバックを行います。必要に応じて研修の軌道修正を行うための評価です。
- ③ 各研修ターム終了時に、研修到達度を評価し、次の研修タームにつなげる情報とします。

2. 総括的評価

全研修期間終了時に、総合評価を行います。

研修プログラム

研修プログラム例①：3年目に出羽島診療所を選択
総合外来の継続と、各科の選択研修が可能です。

3年	4年			5年			
内科+救急	整形外科+救急	小児科	選択	出羽島診療所			
				選択	選択	選択	選択
総合外来			総合外来				

研修プログラム例②：3年目に連携病院、診療所を選択
地域医療の醍醐味を味わうことができます。

3年	4年			5年			
内科+救急	小児科	整形外科+救急	選択	連携病院、診療所			
総合外来		総合外来					

研修プログラム例③：病院総合医型
家庭医療研修を6ヶ月に凝縮し、病院総合医能力向上をはかるプログラムです。

3年	4年			5年			
内科+救急	小児科	整形外科+救急	選択	連携病院、診療所		内科+救急	
総合外来		総合外来				選択	選択
	総合外来						

研修プログラム例④：自治医科大学卒業生対応プログラム
自治医科大学卒業生が家庭医療専門医を取得できるプログラムとなっています。

3年	4年			5年			
内科+救急	小児科	内科+救急		連携病院、診療所			
総合外来		総合外来					

その他、相談に応じて多彩なバリエーションが可能です。

連携医療機関

「研修施設群の概要」を参照してください

連絡先

プログラム責任者：谷 憲治

E-mail: taniken●tokushima-u.ac.jp (●を@に変更してください)

徳島大学大学院医歯薬学研究部総合診療医学分野

770-8503 徳島市蔵本町3丁目18-15 TEL 088-633-9656

URL: <http://www.tiiki.umin.jp/>

徳島県立海部病院

775-0006 海部郡牟岐町中村字本村75-1 TEL 0884-72-1166

URL: <http://www.tph.gr.jp/~kaifu/1%20top%20page/index.html>